

次期「嶺南地域公共交通計画」の概要（案）

策定の目的

持続可能な交通ネットワークの構築や、新幹線効果の嶺南地域全体への波及に向け、嶺南地域の公共交通計画を改定し、JR小浜線を軸にバスやタクシーなどを含めた利便性の高い公共交通の実現を図る。

- 基本目標**
- 将来にわたって地域の移動手段として持続可能な公共交通ネットワークの構築
 - 新幹線効果を嶺南地域全体に波及させるための利便性の高い二次交通の実現

根拠法令： 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条
計画期間： 令和7年度～令和10年度

次期計画に向けた課題の整理

○小浜線を軸とした利便性の高い地域交通の実現

○公共交通を支える人材の確保等による、将来にわたる地域の移動手段の維持・確保

○新幹線効果を嶺南全域に波及させるため、観光周遊手段の確保・情報発信の強化

○まちづくりと公共交通施策との連携

○車中心のライフスタイルを見直し、地域住民や観光客の公共交通の利用促進

施策の方向性

日常の移動手段としての公共交通の利便性向上

⇒ 事業1・2・3

観光周遊に利用できる公共交通の確保

⇒ 事業3・4

公共交通を中心としたまちづくりやライフスタイルの定着

⇒ 事業5・6

主な施策の概要

事業1 公共交通の利便性向上

- 小浜線の増便・利便性の高いダイヤの設定
・アンケート調査や実証運行によるニーズの把握を行い、増便や利便性の高いダイヤを実現
・新幹線やハビラインふくい線等、他の路線と接続が良いダイヤの設定に向けて検討・調整
- 敦賀～東舞鶴間の時間短縮の方策について調査・研究
- 列車運休時の速やかな情報提供、代替交通の確保対策等の調査・研究
- 駅機能の維持
・定期券購入の手続き簡略化やチケットレス化・キャッシュレス化の推進
・防犯対策など、駅の管理体制の整備
- 敦賀駅の乗換案内の充実・利便性の向上
・敦賀駅コンコース内の誘導サイン充実、観光案内所等設置の検討・実施
- キャッシュレス化の推進
・小浜線やバスへの交通系ICカード導入など、キャッシュレス化の推進
- 小浜線の運行に応じたバスのダイヤ調整
- タクシー稼働率の向上
・タクシー配車アプリの普及促進
- 新モビリティサービスの導入など交通DXの推進
・新技術による公共交通サービスの実証・導入、自動運転等技術の導入検討
- ノンステップ型バス車両の導入ユニバーサルデザイン化の推進
- EV車両や水素車両など、次世代型車両の導入など交通GXの推進



JR小浜線



交通系ICカード利用



タクシー配車アプリ

事業2 公共交通の維持・確保

- 計画的な保守工事や監視装置等の充実など、小浜線の安全・安定運行の確保
- 路線バス運行費やバス車両の更新等に対する支援
・事業者に対する、国、県、市町が協調した運行費支援やバス車両の更新等に対する支援
- 市町内路線バスやコミュニティバス等の持続的な運行
- コミバス等の隣接市町への延伸など、市町を跨ぐ移動手段の充実
- 公共交通不便地域における移動手段の確保
・地域の実情に合わせたデマンド交通や公共ライドシェアの導入等の実施
- 公共交通を支える人材の確保・育成
・会社説明会など採用活動の拡充、運転士の待遇改善支援、二種運転免許取得等への助成



デマンド交通

事業3 公共交通サービス情報の充実

- 乗り継ぎ可能な公共交通の案内、多言語化など、案内情報の充実
- インターネットなどの経路検索システムへのバス情報の掲載
- 特設サイトやSNS、旅雑誌等を活用した情報発信
・スタンブラリーなどのコンテンツ作成、特設サイトやSNS等を活用した情報発信



デジタルスタンブラリー

事業4 観光周遊手段の提供

- 観光スポットを周遊する広域バスや観光タクシーの運行
- 嶺南地域への誘客に資する観光列車・イベント列車の運行
・観光列車「はなあかり」や、魅力的なイベント列車の運行を企画・実施
- サイクルトレインやサイクルバス等の導入
・小浜線を活用したサイクルトレインやサイクルバスの運行を企画・検討
- 地域の魅力を発信するラッピングバス車両など、特徴あるバス車両の運行
- 駅を起点とした周遊の促進
・JR西日本の観光型MaaS「tabiwa」と連携し、周遊型商品の企画・販売
- 観光タクシーの運行や主要駅へのシェアEVの配置等、多様な移動手段の提供
- 自転車による周遊の促進
・自転車の駅の整備や各市町の交通結節点に配置するシェアサイクル等の充実



観光列車
はなあかり

事業5 まちづくりと連携した施策の展開

- 駅周辺への都市機能集約や道路空間の再編等と連携した地域公共交通の充実
- 駅待合室の改修やバリアフリー化など、駅の利便性向上

小浜駅の改修(例)



事業6 公共交通利用を促進する意識の醸成

- モビリティ・マネジメントの推進
・地域住民を対象に、公共交通に親しむイベントや外出支援等を実施
・児童・生徒を対象に、公共交通カードゲーム、無料乗車体験等を実施
・事業所を対象に、通勤や出張時における公共交通利用の呼びかけ
- 駅やバス停の環境美化活動など、住民の主体的な活動の推進
- 公共交通グッズの製作・配布など、住民のマイレール、マイバス意識の醸成
- 沿線自治体による運賃助成や、イベント時の小浜線活用を促す取組みの実施



カードゲーム
出前講座

主な評価指標と目標値

指標	現況値（R5年度）	目標値（R10年度）
年間利用者数（JR小浜線）	1,321千人	1,500千人
年間利用者数（路線バス・コミュニティバス等）	770千人	824千人